

R.F.C.M Heartful Report

リスク・ファイナンシャル・コンサルティング・マネジメントのハートフル・レポート===2011年9月号

経営者が認知症なのに気づかない税理士…

「最近、物忘れが多くなった…」とぼやく経営者は周囲にも多く見受けられる。会計処理や車の運転など何の支障もなくこなせているのに、少し前のことを忘れてしまう。

日常生活がそれなりに支障なくできているので家族や仕事を一緒にしている従業員も気づかないまま、いつしか「軽度認知障害」になっているかも知れない。65歳以上の10人に1人は発症すると言われるほど高齢者に多い病気だと言われている。「軽度認知障害」になっている人のなんと約半数の人がアルツハイマー病になっていくというのだから、それを見逃すことはできない。

経営者にとって大切な、目標設定や仕事の段取り、スケジュール調整などができなくなったり、人の話を聞きながら自分の言うことを整理できないなど、様々な症状となって仕事上にも支障が出てくるようになる。

主婦であれば、料理の手順を間違えたり、洗ったお皿を戸棚にきちんとしまえなかったり、冷蔵庫の片付けができなかったり、飲み薬の管理ができなくなり、身だしなみがだらしくなるなどの症状として顕れたりする。

現役バリバリの経営者だと思っけていても、最近では若年性認知症(18歳~64歳)も増えているということから、経営者の身近にいる税理士にとっては、毎月の経営者との面談は数字のチェックをしているだけでは片手落ちなのである。

月次データの入力時に、必要のないものをダブって仕入れたり、デパートからの高価な買い物が異常に増えているような時は、内々に親族の方とも相談して、病院へ行って診断を受けるように勧めることも必要な進言になるはずである。

認知症と診断された経営者の決裁権は…

周知の通り、もしもその経営者が認知症と診断された場合は、会社の代表印を使用しなければならないような行為は一切させてはならないし、ただちに、成年後見人の手続きをするようにさせなければならない。

財務の中枢に関わる税理士としては、前述の「軽度認知障害」の段階において、取締役会により代表取締

リスクのクessler
数字ばかりチェックしていた…ダメな税理士
どうする?経営者やその親族が認知症だったら…

役の変更をしておくことも重要な提案である。

ただ、経営者の債務保証額の状況によっては後任の代表取締役について十分な検討が必要になるので、リスク・カウンセラーや精神科医の意見を鑑みた上で、税理士からの的確なアドバイスを早急にする必要があるものと考えられる。

経営者の病状に気づいていながら、事業を継続させている税理士がいたとしたら適格性に疑問を感じざるを得ない。

事業継続もできなくなる現実がある…

中小零細企業における70%超の事業所が債務超過の中で喘ぎながら経営している実態があることは今更言うまでもないが、天災や特定の人災による異常事態は、多くの場合、損害保険で賄うことによって事業継続ができたのだが、急激に進行した認知症による事業経営の異常事態は、保険などによる補償によって補いきれるものではないことを十分に知っていなければならない。

一般的に災害発生時に備えた事業継続計画(BCP: Business continuity planning)の必要性は「東日本巨大地震」の発生により再認識されていることは好ましいことだが、経営者が認知症になることによる『事業喪失』の可能性を引き起こし得る事

態に備えている経営者やその家族、そして、身近な関係にある税理士においても、経営者周辺のリスク管理に目を向けることが重要になりつつある。

経営者が『認知症』になっていると明らかになった場合に、本人には「意思能力」がないことになるわけだから「日常的行為」としての会社や個人の資産売却、借入手続きや預貯金の異動、支払手形への代表印の捺印やその他の代表取締役としての決裁権、「事業継続」のための所有株の異動や生前贈与などは、本人にさせてはならない行為、また、したことが無効となる行為でもある。

病状を早期に発見し「任意後見人」「成年後見人」の選任をすることとともに、本人の症状が軽いうちに医師や法律家と相談の上「BCP対策」となる手段を講じておくべきである。

(リスク・カウンセラー/認知症予防指導士1級 細野孟士)

ちよつと歳時記

北半球の温帯域を中心に約三千種が分布するといふナデシコ。日本に分布するカワラナデシコやハマナデシコが一般的ですが、ヒメハマナデシコとシナノナデシコは日本にのみ自生する種類だといふ。

今年から来年にかけて、日本中を湧かせることになったヤマトナデシコは純粋な日本女子サッカーチームの愛称だ。その華やかさと逞しさは他に類を見ない。

夏から秋にかけて咲くナデシコは園芸品種も多数あって、清楚で愛らしく茎丈が短いこともあって手折りにくいので、身を屈めて見入ることになる。花言葉は、「いつも私を愛して」「純愛」「思慕」「慕つ気持ち」「快活」「女性の愛」まさに女性のための花か。



- 【い】…… 椅子の座布団が早く傷む社長、現場歩きが少ない証拠
- 【ろ】…… 論より実証、行動しない知識は屁の価値もなし
- 【は】…… 判断力は知識、情報、体験の質と量で精度が高くなる
- 【に】…… 人間欠点は誰にもある、その欠点を指摘してくれる友人は宝です
- 【ほ】…… 本棚も本立もない社長、経験主義でいずれば袋小路
- 【へ】…… 変化への適応力は、社長の柔構造の脳にあり
- 【と】…… 特化した個性が経営の魅力、わが社の個性は何だろう?
- 【ち】…… 知識と知恵のある社長、いつも好奇心でこころ澆刺
- 【り】…… 理念なき経営は、場当たり経営でいずれば壁に突き当たる
- 【ぬ】…… ぬかるみも泥沼もある経営、耐える力と乗り越える知恵が会社を支える
- 【る】…… 離れ小島で類縁なく独り孤独、社長の決断とはそんなもの
- 【わ】…… わが子の能力は傍目八目で見よう、おがめ過信は禁物未来を誤る
- 【か】…… 感動した出遭いと本、何もなし社長は成長停止で下り坂
- 【よ】…… 予期せぬアクシデント、危機乗り越えるは臨機応変の知恵
- 【た】…… 短期思考と長期思考、顕微鏡と望遠鏡の二つが社長の必携ツール
- 【れ】…… 連絡報告がギクシャクする会社は、風通しに問題あり

経営いるは二十二訓
二見道夫

- 【そ】…… 相談が舞い込む社長には、人徳のある人が多い
- 【つ】…… つねに勉強いつも好奇心、気付きの心はこれが原動力
- 【ね】…… 熱意が燃えれば知恵が湧き、熱意不足なら愚痴が出る
- 【な】…… 「なぜなんだ?」、この疑問符が問題解決力の源泉だ
- 【ら】…… ラクして儲かった金に生き金なし、生き金は汗と知恵の産物だ
- 【む】…… ムダにも、有用のムダと無価値なムダがあり

(経営狂歌)

変わらねば ダメと知りつつ ぬるま湯に
いればいるほど 茹で蛙かな(ネット拾い読み)

社長の問題意識

新潟県の長岡市で住宅会社の社長が、自慢のモデル住宅を見せてくれた。見た筆者は、"ダメなモデル住宅"と指摘したら、社長は怒ってしまった。しかし、この会社は2001年に破綻消滅した。ダメ住宅のダメ理由は何だったのか。それは吹き抜けの、一見豪華な3階建住宅にあった。冬になると、雪囲いをする寒冷地で、何が吹き抜けか。バカも休み休み言え、と指摘されて当り前ではないか。吹き抜けだからいくら暖房しても、暖気は天井へ集まり室内はいつまでも冷えたまま。見せかけの外観を自画自賛する社長は、完全なる"問題意識麻痺症"にかかり重病。こんなおかしな住宅を建てる会社に、どんどん融資した当時の新潟中央銀行と抱き合い心中のようにして、2001年に消滅。

【問題意識】正常と異常の落差に気づくこと、正常認識が狂っていると、異常も正常に見えます。
(経営コンサルタント 二見道夫)

【東京都による想定「断水率」】

- 墨田区..... 80%
- 江東区..... 79%
- 葛飾区..... 74%
- 江戸川区... 73%
- 足立区..... 73%
- 荒川区..... 70%
- 中央区..... 69%
- 武蔵野市... 37%
- 三鷹市..... 21%
- 調布市..... 19%

都内平均... 35%

23区..... 46%

多摩地区... 11%

復旧日数... 30日以内

(東京湾に近い東部地区は、地盤が悪く、被害が大きいと想定)

気になる数値... 35%... 30日
M7.3震災時の都内水道の断水率と復旧日数

左記の数値は、東京湾北部でマグニチュード7.3の地震が起きたと想定したときの上水道の「断水率」で、東京都が管理する水道管(総延長約2万6千km...地球半周分)のうち、10年度までの耐震化済み27%から19年には48%にする予定であるという。

地下に敷設されている直径4~5寸の水道管を「耐震性の高い継手」に交換することによって、地震による断水、漏水の防止と共に復旧までの日数が現在の30日以

内から20以内に短縮されるという。

非常時の断水により困るのはトイレ、料理、入浴といわれていますが、2~3週間のもの間にわたって断水するとしたら、日常からそれ相当の備えをしておかなければならない。

トイレ対策は下水道が利用できない状態を考慮して簡易トイレを備えておく。

については、雨水や上水を備蓄する簡易的な貯水槽と浄化装置、節水シャワーなどの工夫をする。

ビルの給水が屋上貯水槽からポンプアップ方式に切り替わりつつあるが...チョット心配ですね。

アパート経営には「借地権」の土地が有利

不動産コーディネーター 豊田 泰由

親から相続を受けた借地権の土地にアパートが建っているという人からの相談は、地主が底地権を第三者に譲渡したことによるトラブルだった。

地主が高齢になったり権利関係が複雑だったりする土地は底地買い専門業者に売却されることがあるが、所有権価格の約15%程の価格で買い取った業者と借地権者との間で、様々な問題が発生するのは今に始まったことではない。

時には...所有権が買い取り業者に移転していないのにも関わらず、既に所有権が移転しているかのごとく契約書に署名を求めてきたり、地積測量や隣地境界線が曖昧なまま売買契約をしようとするのだから、素人にとっては不安この上ない状況になるのは当然です。

アパート経営しているのであれば、むしろ借地権のままでもいいのではないかとはいえ、万一の時に備えて現金は手元に持っていたほうがいい場合だってある。

底地権を買ってその画地の前面道路が幅員が4mの道路に2m以上接していなければ、再建築が不可能な土地なのであるから、全くの捨て金になってしまう。

まして、アパート経営をしている建物が建つ土地を所有権にしたところで、利回り率が一気に低下するばかりで、何がメリットなのかを理解することはできない。土地は所有するばかりが良いのではない。時には借地権の土地こそ取得原価が廉価な「借地権」の土地にしておくべきであると思う。

認知症予防・新書

25

NPO法人 認知症介入指導協会 理事 清輔喜美男=
<http://www.ninchisho-yobo.jp>

「アルツハイマー病」のタンパク質を発見

アルツハイマー病に関連するとみられるたんぱく質を、大阪大の研究グループが新たに見つけた。このたんぱく質の量の変化を調べることで、早期診断に利用できる可能性があるという。欧州分子生物学機構の学術誌で10日発表する。

脳神経細胞が死んでいくアルツハイマー病は、体内で「アミロイド」というたんぱく質が増えて、脳に老人班と呼ばれる特徴的な染みをつくる。脳を守る脳脊髄液などから、このたんぱく質の量の変化を調べ、診断につなげる研究が進んでいる。だが、多くが脳に蓄積されてしまうアミロイドは、特に初期段階では量の変化が分かりにくく、病気の早期発見が難しいことが課題だった。

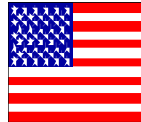
阪大の大河内正康講師(精神医学)らは、脳に蓄積しない性質を持つ「APL1」というたんぱく質が、患者の脳脊髄液にあるのを発見した。このたんぱく質の増加と病気の進行度が一致していることもわかった。さらに追跡調査でこのたんぱく質は、発症の少なくとも2~3年まえから増え始めることも突き止めた。これを目印にすれば、アルツハイマー病の早期診断に使える可能性があるという。

大河内さんは「脳神経脊髄は腰に針を刺して採取する必要があるが、診断自体はすでに実用化できるレベルにある。早期診断が実現すれば、将来アルツハイマー病になるのを防いだり、遅らしたりする治療法の開発にもなるはずだ」と話してる。
(朝日新聞6月10日朝刊)



World Now

債務増加はいつでも起こりうる



国の債務不履行は現代においても充分起こりうると述べる「国家は破綻する 金融危機の800年」を先月ご紹介しました。今月も同じ本から、もうひとつグラフをご紹介しますと思います。

GDP比で200%を超える債務を抱えている日本ですが、その推移をあらわしたのが次のグラフです。先月ご紹介したとおり、日本にも債務不履行がありました。そのあと徐々に債務残高は増えていますが、短期間に急激に増えたのはバブル崩壊のあと、つまり銀行危機の頃です。

銀行危機を収束させるために採られた政策の財源として国債発行が膨らんだ結果なのかもしれませんが、この傾向は日本

に限ったことではありません。

銀行危機が始まった年の債務残高を100とし、その3年後の債務残高を比べてみると、世界平均で186.3だということです。

つまり、銀行危機が起こってたった3年のあいだに、債務がおよそ倍になっているというのが一般的だということです。

しかも、過去数世紀にわたって債務不履行を起こしていない国は世界に幾つかありますが、過去2世紀に一度も銀行危機に陥っていない国は見当たりません。

たとえば、1800年から2008年のあいだ、ベルギー、デンマーク、フィンランドでは債務不履行もリスケジュールもされたことがありません。

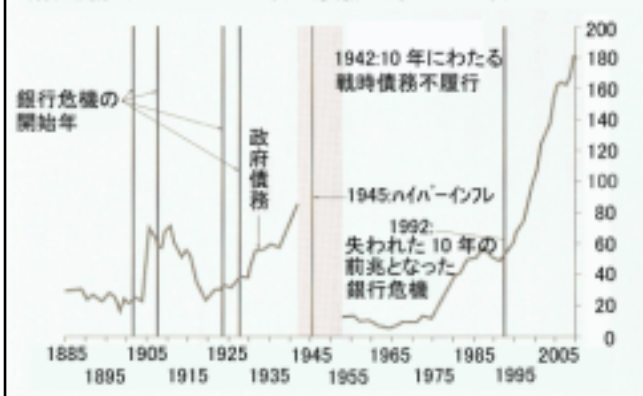
しかし、同じ1800年から2008年の7.3%にあたる期間は、ベルギーは銀行危機に陥っていました。同様に、デンマークで7.2%、フィンランドで8.7%の期間、銀行危機に見舞われていました。

つまり、債務が膨らむ危機はそれだけ身近なことです。しかも、債務は中央政府によるものだけではありません。地方それぞれにも債務はあり、それも同様に増えるのだと「国家は破綻する 金融危機の800年」は強調しています。

企業と違って、国は破綻しても存在しなくなるということはありません。

しかし、債務に問題があると市場が判断すれば、金利も物価も多大な影響を受けることになります。ただひたすら問題を先送りするのではなく、国民もこの債務問題に向き合うべき時期が来たのではないのでしょうか。

日本の中央政府債務(国内債務および対外債務)、債務不履行、銀行危機(1885~2009年)(債務は対GDP比率)



企業再生に取り組む経営者の姿勢

～朝～だ夜明けだ～潮の息吹～、ぐ～んと吸い込～む～、海～の男だ～艦隊勤務、月月火水木金金～と、少々時代錯誤だと感じるかも知れないが、金融機関にリスケジュールを申し入れ苦しい資金繰りを凌いでいる小規模企業の経営者は、365日、24時間勤務を辛いなどと言っている余裕はない。

月月火水木金金～と、土日の休日があることに時間が惜しいとさえ感じることもある。

リスケジュールの期間が終了する前に、赤字體質を生んでいる社内体制をしっかりと改善して、業績を回復してリスケ前のように元本を返済できるようにするにはそれ相当の余裕資金を蓄積しておかなければならない。

カレンダーが赤や青い文字になっているからといって人々の生活は止まっているわけではなく、大切なお客様や下請け企業が弊社とコンタクトをとりたいと思っているかも知れない。

「もしもそれがクレームだったりしたら……」と考えると居ても立ってもいられない。

例えば社員が休んでいようとも、社員が無駄なく行動できるようになるための中間管理職への指導書や組織体制の見直しを行う。

指導書は、社長自身の言葉で、一字一句を分かりやすく社員の心に届くような思いを込めてつくりあげることが大切だ。

経営者が会社経営が窮状に直面し、リスケジュールの道を選択しなければならなくなったのは、これまでの経営のあり方に問題があったと自覚することが、企業再生に取り組む総ての原点なのである。

本気で取り組むとスピードと勢いが見える

経営者に訴えます。

「もしも、会社がダメになってしまえば総ての財産を保証債務の代償として剥ぎ取られることになるのですよ……」

「自分の資産だと言っても、財産価値より担保や連

リスク・カウンセラー奮闘記・86

帯保証人としての保証債務の額の方が多ければ債権者のモノと同じことなのですよ……」

「お金で買ったモノは一旦手放して借金を減らしましょう。会社を建て直したらきっと買えるようになります……」

「企業再生は、経営者の個人財産を吐き出す覚悟で捨て身になって取り組まなければ、社員や債権者の協力を得られませんよ……」

「個人資産が有りながら、社員に賞与を支払わなかったり、リスケは考えられませんよ……」

金融機関の貸し剥がしは、再生に取り組む経営者の態度が大きく影響してきます。

社員の士気の向上、金融機関の支援、取引先の理解と協力、などがあってこそ会社経営が成り立つと言うことを忘れてはいけません。

ズルズルと決断できなかった社長が、私欲を捨てて行動を起こすことによって、社員も、金融機関も、取引先も総ての力が結集し”一気呵成”の勢いで目標を達成することが可能になるのである。

縮小することを恥ずかしいと思うこと勿れ

易经に「尺蠖(しゃっかく)の屈(かが)めるは伸びんがため」という言葉があるが、小規模企業経営者が肝に銘じていなければならないのは、事業規模を縮小することや余分な資産をとときには手放すこともしなければならないのだ。中小零細企業経営者が経営が行き詰まりリストラに取り組むとき、資産処分は恥ずべき事ではなく、自在に縮小拡大ができる才覚を持つことが大切であるということ厳しく教えられた。

精鋭部隊と自負できる組織に相應しい社員を育て上げることに資金を投入することを惜しまず、会社のために…、上司のために…、自分自身のために…懸命に働いてくれる社員が育ったとき、会社の事業は盤石な経営体制が整ったと言って過言ではない。経営者の余剰資産の処分は縮小ではなく、無形ながら成長し続ける資産へと転換したに過ぎないのだから、何ら恥ずべき事ではないのだ。むしろ、持ち続けることの方が滑稽な様なのであることを理解すべきではないだろうか。



ご利用ください! 『経営危機から家族を守る!』のしおり

このキーワードは、リスク・カウンセラーが小規模経営者に向けて訴え続けている永遠のテーマです。正しく“家訓を守り”承継できる会社経営をめざす経営者急成長したのに資金繰りに行き詰まり再生に挑む経営者長引く経営不振に決断が先送りになり迷走している経営者不慮の事故により経営が危機的状態となった経営者の家族企業再生が失敗に終わり“起死回生”に向けて頑張る経営者“万が一”の経営危機を回避するには日頃からの備えが必要です。

問題が起きる前に社内勉強会にお役立てください。出張による少人数制ミニセミナーをお受けしています。



発行者 株式会社 ホロニックス総研
責任者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野 孟 士
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-5-12
TEL.03-5684-0021 FAX.03-5684-0031

http://www.holonics.gr.jp

【ホロニックス】

(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。

すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を發揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する (小学館「カタカナ語の事典」より)